



第 49 号
編集・発行
信州大学附属図書館
繊維学部分館
平成15年12月24日

CONTENTS

日本語ワープロ発明 Before and After	機能高分子学科	太田 和親	(2)
学生用図書を紹介			(6)
分館通信 告知板			(8)
分館日誌			(9)
編集後記			(9)
《付録》2004年外国雑誌購入予定リスト			

Library(電子版)はインターネットでも提供しています。
URLは <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online.html> です。

日本語ワープロ発明 Before and After

機能高分子学科 太田和親

2003年12月10日 随筆

現在45歳以上の方なら、覚えておられるかもしれません。今の様に日本語のワープロがない時代、公式の文書を清書するには、印刷屋さんへ行って頼むか、自分で、とても一人では運べないような極めて重い日本語タイプライターを買って、一字一字鉛の活字を拾って打つかしなればなりません。だから、1982年に私が運転免許証を横浜の二俣川へ書き換えに行った時、警察の人が、「この申請書をそのままコピーして作りますので、氏名住所が手書きのまま交付されますが、いいですか。もし活字がよかったら、前にあるお店でタイプで打ってもらって申請して下さい。」と言われました。そこで、行ってみると、日本語タイピストの女の人が、猛烈な速さで鉛の活字を選んで、私の名前と住所を打ってくれました。「さすがプロ！」などと思って感心しました。

一方、私の家内の日本語タイプライターの思い出は、逆に悲惨です。彼女は独身時代、大阪大学工学部応用化学科で塩川二郎先生（前塩川正十郎財務大臣の実弟）の研究室で技官として勤めていました。その頃、塩川先生の日本化学会賞応募のため大変分厚い申請書類を作成する必要から、塩川研でわざわざこの植字式の日本語タイプライターを購入したそうです。そして幸か不幸か、その書類のまとめを、彼女が担当することになりました。彼女は化学の出身の技官で秘書ではありませんし、また日本語タイピストの資格を持っているわけではなく、全くの素人でした。それでプロじゃないので、2800字に及ぶ鉛の活字がどこにあるのか判らず、一つ一つ探すのに大変苦労しました。遅々として進まず、またその上、一度間違えると修正がもう大変で、精根尽き果てたといえます。

したがって、今から20年前の当時では、プロの資格を持っている人以外、日本語のタイプライターに触れることは、私の未来の家内以外、まずほとんどなく、まして、自分の家に1台持とうなんて思うことなど念頭にすらありませんでした。当然、一般の人は皆文書は手書きが普通でした。学会の講演予稿集なんかも、確か1985年くらいまでは全部手書きでした。それで、字が上手な人は立派な教養人に見えたものです。字が下手だと、何だか講演内容も安っぽく、その人物もぱっとしないのではないかと勘ぐったりしたものです。だからでしょうか、歴史上有名な人の手紙など、達筆だと額に入れて、「何でも鑑定団」に出されて高額な評価を得たりするわけです。教養人＝字の上手な人というのが、2000年近く日本における長年の評価基準でした。ところで、皆さん知っていますか？信州大学繊維学部的前身、上田蚕糸専門学校の初代校長針塚長太郎先生の書が、少なくとも二つ学内に残っていることを。一つは、農場建物脇の石碑の碑文「蚕霊供養塔」が、針塚先生の書です。碑の裏面によると大正12年に建立されたようで、今年で丁度80年にな

ります。また、図書館脇の古い建物「旧千曲会館」の床の間の掛け軸「啄徒啄師(たくとたくし)」も針塚先生の書だと聞きました。極めて達筆で流麗です。字を見てやっぱり大変立派な人物だったとお見受けします。

話がそれましたが、今はほとんどの人がパソコンで日本語の文章を作成したり、携帯(電話)で(電子)メールを送ったりしています。これらは全く「日常茶飯事」となりました。現代風に言い換えると、「日常パソコン・メール事(ごと)」と言えるでしょうか。しかし一体誰が、このように、コンピューター上で日本語を扱えるようにしてくれたのでしょうか。以前はローマ字しかコンピューターで処理できなかったはずで、これは、日本語の大革命だと私は思います。

私は、この大革命を成し遂げた人、森健一さんを、偶然にも知っています。私が、東芝の総合研究所に勤めていたとき、研究所内でざっくばらんな勉強会が組合主催で夕方行われ、森さんの「最初の日本語ワープロ・ジェーダブリュ-テン(JW-10)の開発」の講演を聞いたからなのです。その時、講師の森さんとは同じ総合研究所にいたとはいえ所属の部所が違っていたので、この時1回会ったきりで個人的なつきあいは全くありませんでした。しかし私はこの素晴らしい講演を聞いて深い感動をおぼえ、永く記憶にとどめていました。その詳細は、既に2001年10月の、この季刊紙 Library 41号に、寄稿した通りです。今、これを読んでいる皆さん、是非あの Library の記事も合わせて読んでみて下さい。きっと、森健一さんらが世界初の日本語ワープロを開発した当時の御苦労が判って頂けるものと思います。また、この開発思想が、後に多数の非ヨーロッパ諸語のワープロ開発に、多大の貢献をしていることもお判り頂けるものと思います。日本語ワープロの開発は、実は日本という枠を越えた世界の画期的な出来事だったのです。

それで、私はあの Library の記事にも書いたように、NHKの人気番組「プロジェクト X」にこのことを取り上げて欲しいと思い、電子メールでNHKに Library の記事を添付してお願いしました。そしたら半年位して本当に取り上げてくれ、2002年9月3日に森健一さん達3人が「プロジェクト X」に出演されました。私は陰ながら応援していたので、自分のことのように本当に嬉しく思いました。

さて、誠に不思議なことがあるものです。私は東芝に1981年から1982年の2年ほど在職した後、この信州大学繊維学部へ赴任して丸20年になりますが、21年ぶりに東芝の森さんと、今年2003年の9月4日に信州大学で再会しました。森さんが信州大学の私の所へわざわざ訪ねて来られ、御丁寧なお礼を述べられ、高価なワインを2本置いていかれました。なぜかという、全くインターネットの威力の賜なのです。ただし「プロジェクト X」のことではありません。森さんは私が「プロジェクト X」にメールを送ったことなど知る由もありませんから、全く別のことで、わざわざ来られたのでした。

上に述べた通り、私は2001年10月にこの季刊紙 Library に「日本語ワープロを開発した森健一

さん」を寄稿しました。これはすぐ、信州大学繊維学部図書分館のホームページにアップ（掲載）されました <<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online/no41/2.html>>。それから1年半後の2003年の5月、突然図書館の内海係長が来られ、「本田財団から、『太田先生が書かれた森健一さんに関する記事を読みました。是非、先生に頼みたいことがあるのですが、大学のホームページからは先生の電話番号などの連絡先が判らないので、連絡先を教えて欲しい。』とのことです。」と、図書館宛の電子メールのコピーを手渡されました。そこで、お尋ねの本田財団の事務局長さんに電話したところ、「本田財団では、ノーベル賞級の人を毎年独自の基準で一人選び、1980年から毎年本田賞を授与しています。森健一さんが今回候補者の一人として推挙され、その為、インターネットで森さんのことを調べていたら、信州大学繊維学部図書分館の季刊紙に太田先生が、森さんのことを書かれている記事を見つけました。これをコピーして選考会の先生方に読んでもらったところ、皆大変感心して、森さんが最終選考に残られました。つきましては、太田先生に正式に森健一さんの推薦状を書いて欲しいので、御連絡しました。」とのことでした。大変光栄なことですが、私の専門とは全く違う分野のことですし Library の記事以上のことは書けないので、事務局長さんの了解を得て、Library の記事に英文の要約を付けてこれを推薦状として、本田財団に送りました。8月の末に、本田財団から私に森健一さんが、見事本年度の本田賞受賞者に決定されたので、是非、御夫婦で11月17日の授賞式に参加して欲しいと、手紙で連絡を受けました。それから間もなくして、9月4日に森健一さんがわざわざそのお礼に、私の所へ訪ねて来られたという訳なのです。21年振りにお会いし、誠に奇縁というか、人と人とのつながりの妙に改めて感動した次第です。

森さんは、その後東芝の子会社の東芝テックの社長となられたと聞いていました。お会いしてお話を伺うと、2003年の5月には65歳で社長を勇退され、現在は相談役となっておられました。21年振りに会ったのですが、一瞬で時空が埋まった感じがしました。その際、私は授賞式に必ず出席するお約束をし、また、森さんには信州大学の学生の前で一度話をしてもらいたいとお頼みしたところ、快諾して頂きました。

2003年11月17日（月）には東京のホテルオークラで開かれた本田賞授賞式に、夫婦で出席致しました。本田賞は日本の賞ですが、日本に限らず世界中でノーベル賞級の仕事をした方に、本田財団独自の選考基準で毎年1名に授与されています。過去23年間で日本人は森さんを含めてまだ4人しかいません。森さん以外の日本人は、青色LED発明の中村修二さんなどがおられません。副賞は1000万円です。何故11月17日に授賞式をするかということ、本田の創立者、本田宗一郎氏の誕生日が11月17日だからだそうです。もし生きておられれば今年で97歳になられたそうです。ノーベル賞もアルフレッド・ノーベルの誕生日に授賞式が行われています。授賞式の後、受賞者の森さんの講演が1時間程あり、その中で、推薦者の二人、国際基督教大学の村上陽一郎先生と信州大学の私に、感謝の意が表されました。大変光栄に思いました。講演台横手には、NHK「プロジェクトX」番組チームから贈られた生花が飾ってあったのが印象に残りました。

全くインターネットの威力は絶大です。「世の中、見ている人は見ている」とよく言いますが、インターネットに載った私の書いた文章を、見ている人は見ている、という単純な意味も、また、私が20年間も森さんのことを覚えていて個人的に大変評価していました、これも見ている人はちゃんと見ているという本来の意味にも、なるでしょう。インターネットはこういう隠れた支持者や評価者の声が、一瞬のうちに全国いや全世界に届くということに極めて価値があると思います。また、インターネットのホームページが日本語で書けること、日本語をインターネットで送れることなどは、森さんが発明した日本語ワープロの技術のお陰なのです。多くの日本国民が、森さんの発明で極めて大きな恩恵を受けています。現在、中国語も韓国語もタイ語もアラビア語もまた、自国の言語と文字でホームページが作成出来、さらにインターネットで文章を送ることも出来ます。これら多くの非ヨーロッパ語のワープロは森さん達の日本語ワープロの開発思想そのものが手本になっていると言われていています。森さんの業績を是非皆さんに、改めて知って頂きたいと思います。

来る2004年1月21日(水)にその森健一さんを信州大学繊維学部にご招待し、午後4:00時から5:00時、大学院棟の604講義室でインターンシップ講演会を開きます。多数の学生教職員の方々に、是非、御来聴して頂きたいと思っています。(終)

~~~~~

文中でもご紹介のありましたとおり、講演会が開催されます。

皆さまぜひご来聴ください。

## インターンシップ講演会



**講演日時：平成16年1月21日(水)**

**講演場所：信州大学繊維学部大学院棟604講義室**

講演1 「リパーゼの産業への応用--洗剤・製パン・油脂加工--」

15:00-16:00 橋田みよ子様 ノボザイムズジャパン(株)  
研究開発部門バイオスクリーニング課 課長  
(ホスト：近藤慶之 電話 0268-21-5481)

講演2 「"もの作り"から"もの創り"へ--世界初日本語ワープロの開発--」

16:00-17:00 森健一様 東芝テック(株)相談役  
(ホスト：太田和親 電話 0268-21-5492)

## 学生用図書紹介

今年も各学科の先生方から学生用図書をご推薦いただきました。  
ご協力有難うございます。開架室に入って左手の学生用新着図書コーナーにリストがございますのでご覧ください。

さて、今回はそんな学生用図書の中でも推薦学科を越えて役に立ちそうな図書、興味深い図書、だけど、専門分野とは外れているために書架に埋もれてしまいそうな図書を、受入担当者が独断と偏見によりピックアップしてご紹介いたします。

「へー、こんな本もあるのか」と興味を持っていただければ幸いです。

### 『学術論文のための 著作権 Q&A：著作権法に則った「論文作法」』

(応用生物科学科推薦)

請求記号：816.5:Mi84

論文執筆の際に、引用方法や引用範囲などに迷ったことはないでしょうか？この本は引用の方法や範囲、その他研究活動を行ううえで遭遇する、著作権に関する疑問に答えてくれます。新書版で134ページの持ち歩きにも便利なサイズです。

この図書の請求記号816には他にも論文執筆に役立つ本が並んでいます。

### 『理系のための英語論文執筆ガイド:ネイティブとの発想のズレはどこか?』

(システム工学科推薦)

請求記号：407:H32

こちらは初めて英語で論文を書く人やまだ英語で論文を書くことに慣れていない人におすすめの1冊です。様々な誤用や日本人特有の表現など、日本人が英語論文を執筆する際に落とし穴となる部分に特にポイントをしばっています。こちらも新書版です。

この図書の請求記号407には理系に役立つ知識の詰まった図書が集まっています。

### 『ポスター発表はチャンスの宝庫！一歩進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで』

(機能高分子学科推薦)

請求記号：407:I43

論文に続いて、学会発表に役立つ図書です。学会へ要旨を投稿する段階から発表後のアドバイスまで、実例を挙げながらわかりやすく説明されています。これからポスター発表をしてみよう、という方にはぜひ一度目を通していただきたいと思います。

**『機械部品の幕の内弁当：ロボット博士の創造への扉』**

(機能機械学科推薦)

請求記号：507:Mo54

ここまでご紹介してきたのは研究成果を発表するために役立つ知識を提供する本ばかりでしたが、ここでご紹介する『機械部品の幕の内弁当』はそれ以前に必要な研究内容を産み出すのに一役買ってくれるはず。失敗を成功に変える方法や役立たないものを役立てる方法、逆説の練習や人まねを避けるコツなど、様々な具体例によって創造力を高めるヒントを与えてくれます。

この図書の請求記号 507 には技術系の方々に役立つ図書が並んでいます。

**『癒しの時代をひらく』『日本型システムの終焉：自分自身を生きるために』**

(機能高分子学科)

請求記号：304:U32

この 2 冊は『癒し』という言葉がブームに先駆けて使い始めた上田紀行氏による著書です。発行年は 1997 年、1998 年。最初にご紹介した 3 冊が研究発表に行き詰まった時、次の『機械部品の幕の内弁当』が研究そのものに行き詰まった時の手助けになる本とすれば、この 2 冊は人生そのものに行き詰まりを感じた時にヒントを与えてくれるかもしれません。

この図書の請求記号 304 には社会問題に関する図書があります。

**『日本を捨てた男が日本を変える：高輝度青色発光ダイオードの発明者中村修二』**

(精密素材工学科推薦)

請求記号：913.6:Su46

この図書の請求記号 913.6 は日本の現代小説に割り振られています。副タイトルの通り、高輝度青色発光ダイオードの発明者、中村修二さんを主役とした作品ですが、伝記でもドキュメンタリーでもなく、小説の形式をとっているのがポイントです。この物語は発明そのものより、サラリーマン研究者が会社から自らの発明の特許権を勝ち取るための訴訟にいたるまでの過程に重きをおいています。著者はこの訴訟を、会社社会日本を個人が報われる社会に変えるための布石を作る闘いとして位置付けているようです。この図書が出版されたのは 2002 年の夏。サラリーマン研究者として一躍有名になった田中耕一さんがノーベル賞を受賞される前のことです。

さて、その田中耕一さんがご自身のこと、研究のことなどについて語った本も図書館に入りました。

**『生涯最高の失敗』**

(教官リクエスト)

請求記号：464.2:Ta84

この 2 冊を読み比べてみるのも面白いかもしれません。

(文責：川西)

## 告知板

ここでは図書館からの最新の情報をお知らせしています。  
次号 Library 発行までのお知らせは、Library 号外として構内の掲示板  
や繊維学部分館ホームページ(<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/>)で  
ご案内していますので、そちらをご覧ください。

### ⇒ 「日経BP記事検索サービス」無料トライアル中

日経BP社が発行する雑誌の記事を、オンラインで閲覧・ダウンロードできます。  
この機会にぜひご利用ください。 >>2004年1月16日(金)まで  
詳しくはこちらからどうぞ → <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/>

### ⇒ 冬季休業中の開館日程について

- ☆ 2003年12月25日(木)は、冬季休業のため開館時間が短縮されます。
- ☆ また、2003年12月26日(金)～2004年1月4日(日)は休館となりますのでご注意ください。

|                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 12/25(木)        | 9:00～ <u>17:00</u> |
| 12/26(金)～1/4(日) | 休 館                |

### ⇒ センター試験に伴う開館時間の変更について

- ☆ 2004年1月16日(金)は、センター試験準備のため開館時間が短縮されます。
- ☆ また、2004年1月17日(土)～2004年1月18日(日)はセンター試験のため休館となりますので  
ご注意ください。

|                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1/16(金)         | 9:00～ <u>17:00</u> |
| 1/17(土)～1/18(日) | 休 館                |



# 分館日誌

## 分館日誌

|          |                                         | (7月～11月)          |
|----------|-----------------------------------------|-------------------|
| 7/15     | 館長・副館長会議(第2回)<br>[附属図書館会議室]             | 出席者—三浦分館長<br>内海係長 |
| 7/22     | 学術情報・図書館委員会 学術情報専門部会<br>(第1回) [SUNS]    | 出席者—太田部会長         |
| 7/29     | 学術情報・図書館委員会(第2回)<br>[SUNS]              | 出席者—三浦分館長<br>太田委員 |
| 7/29     | 学術情報・図書館委員会 附属図書館運営専門部会<br>(第1回) [SUNS] | 出席者—三浦分館長         |
| 8/6-8    | 平成15年度図書館等職員著作権実務講習会<br>[東京大学]          | 出席者—川西            |
| 8/20     | 図書委員会(第2回)                              |                   |
| 9/26     | 館長・副館長会議(第3回)<br>[附属図書館会議室]             | 出席者—三浦分館長<br>内海係長 |
| 9/30     | 学術情報・図書館委員会(第3回)<br>[SUNS]              | 出席者—三浦分館長<br>太田委員 |
| 11/18-21 | 平成15年度大学図書館職員講習会<br>[東京大学]              | 出席者—滝口            |

## 編集後記

今号は太田先生に41号掲載文の後日談をお寄せいただきました。インターネットという媒体が持つ「面白さ・力」を再認識させられる内容ではないでしょうか。また、森健一さんの業績と努力に改めて深い尊敬と感謝の念を抱きました。今号の発行を機に、まだ41号をお読みでない方々にも森健一さんの業績を知っていただき、そして是非講演会に足をお運びいただければと思います。お忙しい中、再度のご寄稿を快くお引き受けくださいました太田先生に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

Library は今号より年3回(4月・8月・12月)の発行となります。利用者の皆様の声も Library に掲載していきたいと思っておりますので、ご意見・書評など何でもお寄せください。係員に直接、またはE-mailでのご寄稿もお待ちしています。E-mail アドレスは、[jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp](mailto:jfg0100@giptc.shinshu-u.ac.jp) です。